

現場へ!

江戸のお屋敷町 今なお人気

再開発 都心「番町」で①

東京都千代田区の「番町」地区は江戸時代、將軍に仕える旗本の屋敷が連なっていた。江戸城の西にある千鳥ヶ淵から四谷にかけての間に、「大番組」と呼ばれる旗本が屋敷を構えたのが町名の由来だ。一番町から六番町まである。

NHK大河ドラマ「青天を衝け」にも登場した川路聖謨は、この地で江戸開城の報を聞いて自書し、大久保一翁はここから徳川家と静岡に下った。「大身の旗本の住む町でした。いまで言えば高級キャリア官僚ですね」。六番町の町会

尾張藩の付家老で犬山城主でもあった成瀬家は、この地区で有数の広さの3800坪の屋敷を有していた。六番町に住む杉浦友子(93)は、その成瀬家の家臣野口家の末裔で、昭和の末には家宝の刀を愛知県大山市に寄付している。

「私が小学校にあがるころ、殿様が屋敷の一部を分譲されたんです。それを父が買います」。江戸時代の長屋が残り、邸内に学校があったことを覚えている。

明治維新後、静岡に移った幕臣に代わって、この地に住むようになったのは薩長の頭官や華族だった。薩摩藩出身の有島武は明治半ば、立派な門構えの六番町の旗本屋敷を手に入れた。その子が武郎、生馬、里見彦である。そばに住んでいたのが武者小路実篤だった。白樺派はこの地で生まれたよ

在を知ったんです」と新井。番町小↓麹町中↓日比谷高は東大進学を目指すエリートコースだった。女子学院や雙葉学園、大妻学院など私立の名門校も立地する。都心に近いうえ、子女を通わせたい学校があり、いまま番町地区は人気の高い高級住宅街だ。



●東京都心の番町地区周辺。左に皇居、奥に国会議事堂や官庁街、オフィス街などが広がる。11月10日、本社へリから、迫和義撮影。●「番町文人通り」にある江戸時代の「町割」の説明板。いずれも東京都千代田区



番町の歴史に詳しい六番町会長の新井 俊



昔の地図を使って、ありし日を説明する杉浦友子

うなものだった。有島一族の女性(85)は「お嫁に来たときはこのへんは静かな町で、戦災にあっても立派な門だけ

が焼け残ったお屋敷もありました」と振り返る。有島家の大きな屋敷は後に兄弟で分け、女性はいまもその一角に住む。

旗本屋敷由来の整然とした「町割」のせいで、広い住宅が取り壊されると、跡地に中層の集合住宅が建つものだから、人口は増える。一番〜六番町の人口は2012年には約1万5千人だったが、21年には約1万5千人になった。子連れの新住民が少なくなり、子供が増えている。

そんな人気住宅地の番町地区で、いま住民を二分する問題が持ち上がっている。かつてこの地に本社を構えていた日本テレビホールディングスが、超高層ビルを建てるというのである。 敬称略 (編集委員・大鹿靖明)